

令和元年度 第1回川崎市住居表示懇談会 会議録

- 1 開催日時 令和元年7月25日（木）午後3時25分～午後4時20分
- 2 開催場所 川崎市役所第4庁舎4階 第4会議室
- 3 出席者 委員 小田委員、菊地委員、野副委員、廣瀬委員、藤沼委員、吉田委員
事務局 青山部長、渡辺課長、田中課長補佐、五味職員、萩本職員、平山職員
- 4 議題 (1) 岡上地区の住居表示について（公開）【資料1】
(2) 岡上地区の地名について（公開）【資料2】
(3) その他（公開）【参考資料】
- 5 傍聴人 なし

6 会議内容（要約方式）

青山部長 【開会あいさつ】

事務局 【議題（1）の岡上地区の住居表示について、資料1に基づき説明】

渡辺課長 市街化区域と市街化調整区域の概要と現状について、岡上地区の特性を踏まえた上で写真を含めて御説明したところですが、市街化調整区域においてはこれまで川崎市では住居表示を実施したことがありません。市街化調整区域で住居表示を実施した場合に懸念されることや、その他何か御意見があればお聞かせいただければと存じます。

菊地委員 確認ですが、岡上地区には2つの町会がありますが、住居表示に関しては岡上町会と岡上西町会が一体となって変えてほしいという動きだという解釈でよろしいですか。

田中課長補佐 岡上西町会とのやり取りがきっかけではあるのですが、住居表示を実施するとすれば岡上全体でということ、現在は両町会とも検討に動いております。

菊地委員 かつて岡上で勤めていたこともあるのですが、市街化調整区域に指定されていないところに小さな不動産業者が入って、次々に西町会のあたりを開発していきました。しかも傾斜面を使用して開発していったため、それぞれの住宅に行くためには坂道を自分たちのエリアにしなければならないという関係が生まれ、細かくなってしまった経緯があります。

また、岡上にある和光大学では、岡上の文化等についてまとめていこうと「岡上学」という講座を設けたりして、住民自身が知識を深める活動を続けてきています。今回の住居表示に際しても、蓄積した考えをもとに、岡上西町会・岡上町会が、学校も

含めて一体となってやろうという意識がある地域です。

営農団地の部分については、善光寺長津田線は道路幅が狭くなっています。また、岡上は町田と横浜の住宅化された地域にすっぽり包まれる形になっており、農業を主体とする調整区域だけが住宅化されずに残っています。調整区域の線引きを変更するには別の法律が関わってくることでありなかなか難しいのでいじらないと思いますが、早野の調整区域など色々な建物が建ってしまっているような地域もあります。岡上ではなんとか市街化調整区域を維持しようと動いているところが、他との大きな違いとなっています。そのあたりも踏まえると、町名を割り振っていく時に、例えば、岡上1～5丁目という表記になるのか、岡上〇〇1丁目・2丁目、岡上△△1丁目・2丁目と分けていくのかといった、地域性に配慮した町名の検討もあろうかと思えます。

事務局 議題（2）との関連した内容もあるので、先にまとめて議題の内容を説明し、その後御意見を伺う形を取ってもよろしいでしょうか（委員からの異議なし。）。

【議題（2）の岡上地区の地名について、資料2に基づき説明】

渡辺課長 議題（2）としては、岡上で住居表示を実施した際に、市街化調整区域を除いた形で街区割りをした案を提示しております。議題（1）も含めて、御意見を吉田委員から順番にお伺いしたいと思います。

吉田委員 事前に、歴史的な地域の成り立ちも確認してきましたが、菊地委員のお話で開発の過程がよくわかりました。歴史的に見ても、岡上の北東部、東光院というお寺のあるあたりが一番古い集落のあった地域になり、南西が元は田畑のあった地域です。そのため、町名については地域住民の意向は当然あるでしょうが、原則としてはできるだけ歴史的な地名を生かしてほしいと考えます。字や小名は、古くから意味を持った名称なので、その区域が生かされる形にしていきたいです。案1の町割りは面積を中心に考えられていて道で分けているようですが、実際は鶴見川で生活圏が分かれていると思われるので、できるだけ丁寧に考えるのであれば、案2のような形の方が望ましいのではないのでしょうか。住民や地域の希望と合致するかは確認していただきたいです。また、新しく開発されている杉山の方については、大学のところで町を分けるのに何か理由があるのでしょうか。

田中課長補佐 目印としてわかりやすいのと、住民や建物の数がおよそ均等になるようにといった理由ですが、数については本格的に調査を行ったわけではないので推測です。

吉田委員 杉山と杉山下には地域として一体性がありますが、北側の川井田との間には何も地名が入っていません。崖下のところまでの細長い地域が昔からの地域だと思うので、大学のところで二分するのではなく、一体とするべきではないのでしょうか。町の成り立ちの経緯を大切にしていきたいと考えます。

渡辺課長 藤沼委員の方から、不動産登記等の観点から御意見をいただけるのでしょうか。

藤沼委員 不動産登記の点からは特に実施や町名についての懸念事項はありませんが、地域を割る際に注意していただきたいのが、ゆくゆく、土地を合筆したいとなった場合に、地番区域が異なっていると隣接している土地であっても合筆できない点です。その

ため、町を分ける時には道路等の公共物で分けていただく方がよろしいかと考えます。後は地元の意見に沿ってやっていただきたいと思います。

渡辺課長
廣瀬委員

廣瀬委員の方から、防犯や地域安全の観点から御意見をいただけるでしょうか。警察としては、住居表示が実施されることはありがたいことです。説明するまでもないことですが、現場に一分一秒を争って到着する必要がある中で、現場を仕切るにしても行くにしてもわかりやすくなることは助かります。まったく懸念されることはありません。今回の案については、この町の規模であれば案1でも案2でも問題ないと考えます。

渡辺課長
野副委員

野副委員から御意見をいただけるでしょうか。日本郵便としても、町名については地域の意向に配慮していただければよろしいと考えます。郵便局としては町に郵便番号を付定するので、特段問題はございません。

渡辺課長
小田委員

地名研究所のお二人から全体通して御意見をいただけるでしょうか。岡上には和光大学があるイメージでしたが、東京都町田市を住所としていることに驚きました。ただ、岡上学という講座を始めたということであれば、吉田委員のお話にもあったとおり、杉山や杉山下という地名を大事にしなければならないと思います。

日本地名研究所の関係でお話しをすると、年に1度行われる大会で、来年は富山県の南砺市に利賀村というところで開催するのですが、住民が「利賀村」という固有名詞を残したいということで、市の中に、唯一の村として地名を残しているところがあります。一方、城端（じょうはな）という由緒ある地名が市への合併により、郵便番号簿からもなくなったことということで、地域の方は合併から十年以上が経過してもいまだに怒っている状況があります。当然ですが、そういった事態にならないような配慮は必要であると思います。

また近頃は、昔の地名に戻ろうという流れもみられるので、小字や小名を大事にいただきたいと思います。あとは、例えば「開戸」などはどこにでもあるような地名なので、岡上の昔ながらの独自の地名をピックアップして、住民にも地名の面白さについて考えてもらえたらと思います。

菊地委員

法務局の地番調書を見れば字名はわかるので、川井田や小塚の境目はわかります。川崎地名研究会ではどの地域が川井田なのか杉山下なのかということはすべて把握できているので、照らし合わせることは可能です。

渡辺課長
廣瀬委員

全体を通して委員の皆様から御質問や御意見あればお願いします。町名案について、住民はどのように考えているのでしょうか。

田中課長補佐
平山職員

まだ委員会も立ち上がっておらず、その段階までは至っていない状況です。勉強会を合同で開催した際に町内会の方にお話を伺った中では、「岡上」という地名には愛着があるとお声はいただいています。

田中課長補佐

岡上でやるとすると何丁目になるのかということに気にされる方もいらっしゃると思います。

渡辺課長

他に御意見がなければ、最後に、その他として参考資料を御紹介いたします。

事務局

【参考資料に基づき報告】

それでは、以上で閉会とさせていただきます。次回開催予定は令和 2 年 2 月 20 日（木）となります。改めて文書にて通知をお送りしますので、よろしくお願いたします。

以上